

愛知県立西尾高等学校武道場及び正門



武道場（南東から）

愛知県立西尾高等学校は、西尾市北部の桜町、名鉄西尾線桜町前駅の西800mに位置し、大正7年(1918)に開校した西尾町立高等女学校を前身とする県内有数の伝統校です。

武道場は昭和4年(1929)に建てられたもので、平屋建て、外壁を鉄筋コンクリート造りとし、小屋組に木造と鉄棒を組み合わせたクイーンポストトラスを採用しています。外観は軒に突き出た肘木の先端を木鼻とし、本瓦葺の屋根を架けるなど和風建築の要素をもちつつ、全体としては洋風建築の雰囲気を感じます。



正門（南から）

国登録有形文化財建造物の正門は、昭和5年(1930)頃に愛知県西尾中学校の正門として校地の南辺中央に建てられたもので、間口約9m、4基の方形の門柱を立て左右に脇門を付けています。門柱は鉄筋コンクリート造りで、高さが中央柱は約3m、脇柱は約2.4m、柱礎、柱身、柱頭の3つで構成されており、柱頭部にはアカンサスの葉を用いた装飾が付いています。また、正門を入った所には昭和5年(1930)に建築された本館の車寄せが遺っています。



日本館車寄せ（南東から）

西尾市岩瀬文庫書庫及び旧児童館



西尾市岩瀬文庫は、西尾市北部の亀沢町、名鉄西尾線西尾口駅の西1kmに位置し、地元の実業家岩瀬弥助によって明治41年(1908)に、人々に無償で公開する私立図書館として開館したのが始まりです。平成15年に日本初の古書ミュージアムとしてリニューアルされ今日に至っています。また、書庫と旧児童館は大正年間に増設された建物です。両者はともに国登録有形文化財建造物に登録されています。

書庫は、大正8年(1919)頃に建てられたもので、煉瓦造り、地下1階地上3階建て、棧瓦葺きの寄棟屋根としています。外観は、煉瓦の外壁を基調に窓の上部や窓台等に石材をアクセントとして整えられています。旧児童館は、現在市立図書館おもちゃ館として活用されています。大正14年(1925)頃に建てられたもので、木造平屋建て、半切妻屋根とした洋風建築です。外観は下見板張り、ハーフトイ



書庫（東から）

ンバー風の妻飾り、上げ下げ窓等に特徴があります。児童用施設に相応しいデザインで、現在も同様の施設としてイベントなどに活用されていることは文化財建造物が本来の機能を維持し保護されている点で高く評価できます。

〈参考〉『愛知県の近代化遺産』（愛知県教育委員会）



旧児童館（北西から）